古今和歌集

自第一卷
至第十八卷

平井品覈

月日	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
平井	一六	一六	一四	一三	一八	二三	二三	二六	二六	二四	二三	一六	二六
十郎	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
鮮黛	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
隱棲	十八	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
林室	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
醉歩	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
宗谷	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
土川	十八	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
井鶴	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
雲濤	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
海鹽	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
青森	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
雲方													
下錄	十八	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六

芦澤藏書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わさの山のたてまつれるのたまものとてもあるべく
のけうとくおろかなるべきをみちのくにうたれはこうふ
まいりてまつりけるとてしうとめなりけるうらうへまうくるあ
ゐふてこれをかそへおかきうへのこの心をしけりはは
このうへ初そうこのこの母のなりにくくうてるあるべく
しえをとしうまうくあはちうなりうれ
うこふもかくせはかなをのむとそれしいはのをんあ
おかうきゆのいはけをんをつまれ宮こ
なふくはふしくやこの花山もこをを
とをまへとをやあ花をふなるへ
ゆへりはかをへうこ
ひく花よ思いにくまれはうきれうり
てこうぶのいはけくどをふなるへ
これをこにいひくをたんふしもやあをはやこの
をいふいふおうわしをのはをうををこをを

いはるあんこまよ
かるあ
よはなをへ宮
君よけこはしあのあ宮のをていおい
これをやあをへりへてをれやをんとをはあるあ
いはをくもあいいにあ
あうなるやこまはうのへ
りはよはをへう
あ悪はよもむもはぶーあるあ海まん演の
こまはよろはの草本あるはこををんふなりへ
かれしかあるんなをれとはこはをはをはりこの宮を
をうしあをををりへうかなりはをはりをはは
いをを思へををりをはりはりはりはりはりはは
はををををををこはををう
いをいはりのなれ世なりはをはいををりへをん云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集　巻第一

春哥上

[illegible]　在原元方

[illegible]　紀貫之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　素性法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二條の后のぐうにて人々のうたよみけるに月を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春日のはるかつゝみやゐなの笹山のうへの雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅のむめとせりて人をとりけり　ちとせあり

[illegible]

梅花旬上[illegible]

月夜よりのこれをせりて人にいとをかしかるべしとて

月夜よりのこれをせりて人にいとをかしかるべしとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今倭歌集巻第二

去哥下

去霞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

僧正遍昭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつゝ院の御桜花とゝまりあるを
いと桜の御もてなしにて人〻りうきあるに
あひ給ふ人の面しきまで人〻とゝまりあるに
花おりて[illegible]
はつ桜を
むしろあるに[illegible]
山のはるゝとゝまりあるに
桜むらさきなるに[illegible]
心ちそこなひて[illegible]
わたさふ桜の[illegible]
藤花
面白くあるに[illegible]
東大雅院の御桜の
みりうのみちをとゝまりあるに
すぐれて面白
はなしもあるに[illegible]
花のまへにたちてよもあるに
さくらのもとの
はつゆき

桜の花にとゝまりあるに
桜のもとにたちあかしとゝまりあるに
桜むらさきなるに
さくらのもとの
久安元年の
きさらぎ日ふつか
心なくむのちの
[illegible]
さくらのもとの
[illegible]
九河内
[illegible]
桜花いとふかくて
[illegible]
桜花
[illegible]
一本
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

平城天皇大同天子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四日をさそひ人々もいとけうとくなれのて
なほ[illegible]ひ日よりくれかたにもなりぬ日をふし
なからこのかはらのつらにもあらしてよ
天川をみわたすをはしめとしてやたかうつめれをもつ
ちもくらのまことにあひ天川をうつしをもわ南
寛平御時なにはの人まうのをうこもの歌
まつまてかはるまてはよかりてよりあもしもわを
天川かはらをもはたりはてはいわをしにせる
ちるは川はまさいわをあ合のうら　藤原朝臣
はつもんをしらしめ七夕れ年ふてむまをかはうと
なにはの日は和とうか　元河内うね
夏てなまてらはれとあをあはるよわをふれる
七夕のかはつはてわうらをあくしひやわうむ
そやん

こよひうら人をいかはうら七夕れ久しかにかはもこそそれ
なにはの和とのかつたよりか　源ゆよの朝臣
今そそはわかはは天川をうをあれ油ひいちはを
なうらは日よりはをかを
をのそくうね
うらはいまうら人をわかはをいはりうをかはわうをなる
よう人をうを
このまよりうをは月は紅れをしけれはをきにけり
大うれれはうにあるをはをこそ恋しき物思ひをうをね
わうをうふをはれはもはをはをををををををををををを
物をしてれはつかをはよりをををををををををををを
むをうをはをこそ草葉をはをはをはをはをはをはをはを
こまをうをみをの家れを合をうを
いにをうをはをわを移をれはをの東をはをはをを
かをををはをれはをはをはをはをはをはをはをはを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

僧正遍昭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀ノ[illegible]

[illegible]の方合ノ[illegible]ノ山ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九州四月みな月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はつゆき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原定家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おほそらの月のひかりしきよきなかに新しくみてえこゆるを
夕されはあしのしたをくくるゆふ霧にしをりしたはるくるまの宿
雪ふる山のあなたにかすみたちこめ雪の山の風はかをるなり
吉野川よしの山の雪けの水ぬるむ春のかすみ
ワの宿の雪のあけぬる日の出
冬のあけぬるとしのくれ
雪の山みやこのうちをふる草とはるもまもなくもえぬる
志賀の山ちかきみやこのうちなれば
白雪の下のわかなをつみてきいとなみ
なつかしきかすみのうちの花とてをれ
みちのくの山の白雪けぬるとも
宮人の袖きこえのうちの
紀貫之
紀ありまさ
坂上是則
壬生忠岑
白雪のふりしくみちのおくの山
雪のうちをたづねてをくるよりは
雪ぶくかからぬなしの
いふのみちをよるの
冬ふかくさそふ花の
雪の木ぬけてはるのこゑ
なまじのこゑのうちまで
をみくらの
秋かぜにたなびくくもの
浦ちかくみちのくの雪の白浪
みちのくの山の白雪
白雪のふりしくみちのおくの山
雪のうちをたづねてをくるよりは
雪ぶくかからぬなしの
いふのみちをよるの
冬ふかくさそふ花の
雪の木ぬけてはるのこゑ
なまじのこゑのうちまで
をみくらの
秋かぜにたなびくくもの
紀河内
坂上これのり
読人しらず

[illegible]

梅の花に雪ふりまがふ朝ト
花の色に雪ふりまがふ　みはね
雪のうちの梅ちるをとる　なほたらゆふ
梅の花の雪をけう雪よりひをとしてとる　紀とものり
ゆふかつらをとりてをとる
雪ふりまがふ　紀とものり
梅の花の雪をかとりてをとる　みはね
梅の花を折りけるを　なほたらゆふ
つゆをまとうの字をとる　仁和
つゆをまとうの字をとる　仁和
やしまとうの字をとる　仁和
つゆをまとうの字をとる　仁和
雪のうちの梅ちるをとる　紀とものり
雪のうちの梅ちるをとる　紀とものり
雪のうちの梅ちるをとる　紀とものり

[illegible]

仁和の天皇みよしの山にいでましてかへりたまはんとしたまふ
[illegible]

僧正遍昭

ちはやふる神のいがきもこすといふ
かりそめにのぼりしかども
[illegible]

仕丁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]

後よとせばの月日をかぞへてこそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

三[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小四季の哥

[illegible]

夏

[illegible]

秋

[illegible]

冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今倭歌集巻第八

離別歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人はしれぬるわむ[illegible]
[illegible]
[illegible]

わひ事をうけ人のうらやましく思ふ月をうて年をへまうてきく
人かたりやうの河よりあるを　　九河内　入道
かたらふ山をふとはあるとてゆるしひさしぬ物ふを消し
ちりぬ世へ月をうとやうなくてたりつ
よわりよりこゝろやりつゝ白山ゆいるゝくもゆるぬ物ふを
をとふ山のかりやくくをりつゝよりはらゆゝ
をとい山ちぐうくなくて郭公君がりつゝまばれしむ今つゝ也
藤原ふれのうちをかりまよりつむよりの月むこゝろかゝ海ゆ
人のちのこゝろもこけそしひをつゝよりみづうみひをちら
ちゝもふるゝよてうぐめよ養母の別　　さわくやいあるぬ
雑　　　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集卷第九

羇旅歌

[illegible]月とてとまりし　安倍仲麿

わたつみのなかにもあるかみさかふる　[illegible]月も

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をりたるかの本

みしかの古里の清水のうしろ[illegible]

[illegible]かるれば

よんひしらず

[illegible]ぬいもやまもりのさとを[illegible]

[illegible]

かくさるるひかりまたなき人をいくつとしと思しるかへ

人のしるかのちふるひのうつりきをも思ひる[illegible]

僧正遍昭

くたふ

おなじかのちいろくふかき花と思ひうつるもまことにて

[illegible]

紙ばけさうしひかきうつる花の色をあくれば物しらぬ

なこそ

白露をむすびあつめたるかの[illegible]

[illegible]

朝顔ばくさのちる花をみるとて

朱雀院のとしの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢

限の花、松ふかくさきぬるを風やあらん
　からやうい　たちいなば
ちくむのつちのかやうるんかけふるる白雪
　よとかく
足引の山をまとれる白雪のいふやうにてこそ
　さそうね
　かたの
春草めくをまとれる水のいとくるさまこそ心ゆ
　ほかなくて
うはすのこの
松をれる月のかつれるやかやうの光に花をちらすにはあ
　まんなしらた
　石和寺
花をちらすにはあらしのとはんなるしらた
　　　

古今倭評集巻第十一

恋部一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年ハかくて有をれば風のうわさに人々来りてとり
去近のしまの方にひとりの旨しらせくるやうなる
月の下を飛ぶ女のうしろかげのあてなる
しるしるしいつ
見なれぬものをみもきく人の来るくいあやかりて
在をきりしの羽織
みて
きりしたる何のあやかくふくいむ思むことをきうたれ
よんひしらせ
うしの月つるにまりけの何物ぞ人をうらなひ
家をうつすにつかやり宮
なるのうち
去日四方の雪まだくくまだしいくたの墓めりふたり君ハ
人の死にしらせおるれとそこなりきひしかりし
ひらつまをくうつりて
にしらせる
山桜ぬの月のようかをうつ人々しの来るをきれ
ぬ
ぬ

たりとのもとにあるに男むの母ぶ人ハ
初ハ流れの水声をきいとり中大なる物をみかれ
にうれる
年すハ来るしかるふかき神のもふきつて来ひるるに
かくいふ後にかくいかなるふよりかまてあるしたる何をむかをん
夕暮ハ雨のうちそれおもて思ひ月をなるんをうたく
かりこしも思ひ絶てくれもたいるうちや人ハ
けしもわるさんをもわるうる
よりて振かもの社のいりてことをしもとけ日ハ
祝悪ハむたりよりをみちうたりやもしかうれ
すふうなるふたの浦浪うみ合ハ
夕しくよりもの思ハのれのあいつもくを来のもかれ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋 二

小野小町

思ひつつぬればや人の見えつらむ
夢と知りせば覚めざらまし

いとせめてこひしきときはぬばたまの
夢にしをだに見てやまにける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今倭謌集巻第十三

恋部一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九河四これね

[illegible]

よんじゅうしゅ

[illegible]

寛平四年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤宮敏行卿の[illegible]

[illegible]

[illegible]

長月なんあるとうしひかの郭公人待れてあるうんもそれ
たちびれわけとうの川のよ　心ひかれやうの人待思うん
山のあなたのいくくるまれあるうの人うらうら
流川のよりむしろくるとうのうさ心あるうめを
うらひたれ関やさうくしかの入佛を紙よりてあるうの
紅の月花をあ色のうくの思ひ心ましまつれるうや
佐奥の思おすらもう雅ひ人と乱るうと思紙をあるく
四のうちいふをよるうの紙風よりしあるうらめ色とし
ちの色よりうちうちうるうの心紙の石をあるねを
小野小町

ひうれをひ里のうちをあるうめくるうるみむとうの人の立
くうるひの紙しかるうるあるうふるみねをあるうの紙
色もるるを代人よりうるうれのうんうるるうふ
よるんをうらび
うるうるうるう

[illegible]

大僧正行尊

[illegible]

たのもしな云ふ葉しとは聞てしを君

[illegible]

今はとて[illegible]

[illegible]

玉がこの乃はに[illegible]

[illegible]

中納言[illegible]

[illegible]

周防

[illegible]

伊勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詠人しらず

[illegible]

古今和歌集巻第十五

戀五

五條の后の宮のおはしましける頃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

住のいろ桜ぞ人はあはれまし
なりひらのわたりにはあらねど
きちかやまれるみふねとうぐいすの
けうとうこえて
みてのゆいふかんをもあるべきこのうち
ゆきらば
はるのうちにはさしもはなのいろかな
をりこそ
今はたそのかみのあるとぬまどのくさのひとつの
ゆめ
人を思ふこころのくらぶ山のくもるもしれぬ
なりしかぜにきりわるつねがひとあるとけるまぎれ
ぬ
おもかげをうつしとどめてみてつるかな

伊勢

ものうしこのうちの人もわすれじ
き林院のみこ

小野さぶ

をりこそ
ゆくの人の心流
をりこそ
ゆきさりてのちかのうちにはあらねど
ゆきらば
うをのうちにはあらねど
夜なれば
ものもふ
はるのうちにはあらねど
やもの
なりひらの
はるのうちにはあらねど
宗于朝臣

はるもなく成り人のうちにはあらねど
をこりてはうつるのうちにはあらねど
をこりてはうつるのうちにはあらねど
をこりてはうつるのうちにはあらねど
わいてうとうとうの人のうちにはあらねど
ちりぬるまをいとうとうの人のうちにはあらねど
ちりぬるまをいとうとうの人のうちにはあらねど

吾衛

ちりぬるまをいとうとうの人のうちにはあらねど
ちりぬるまをいとうとうの人のうちにはあらねど
ちりぬるまをいとうとうの人のうちにはあらねど

ちはやぶるかみのわざ

何とぞくかまゆ[illegible]

世間しらぬ人の[illegible]

[illegible]

伊勢

冬がまへの世人[illegible]思ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]の淡の消くるを[illegible]

[illegible]

人に[illegible]ね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きのはらいゆき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今倭歌集巻第十九

雑 躰上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田村のみやぬしに神院より御ぐしまゐらせ
こしらへのやまちのあるべきよしひしく神院とうんとこたへ
をきたりしかどもかれより
大ぐしのぐしの行月しらぬ雲のうへにあけくれ
野ぐしうん　　行月数信
いとけなくかくしもとりつかせたまへるくふ
伊勢の八の野中の御ぐしのあるべきかたもなくて
古の人のなくさまれ給へるこそいとあはれなれ
今はてはあとをしたうハみとよみさしけるもあはれ
世中よりあるべきはいかなる国のおくれ稲荷なりけり
さて八幡のぐしつひに雪のうへにあらはれたりけるこそ
なにわづらふべきもなくてかくれもしたりけ
又さてあるべきこの井のしるしまれにあるまで
かくしもとりつかせたまへるこそ

とてもかなはぬ所よりはじめて焼堀の御ぐしをあらはしけうん
又ものもうしたまへるこの門はいとあるべきほどの
この所の言ハ者者ならんとりれなくあるべきなん
ぐしのまよりゆるなんとあるべきこそつぶ
とりしらぬわれわれ
とりあへんしもとりてくるまいなりけり
続山ぐしとりてくるこそ
山ぐしの行ハ人ぐしのあるべきなり
たりひとりの朝臣の御ぐしのあるべきこそ
ぐしのえたりけるとあるべきこそ
ぐしのうへにあるべきこそ
ゆるしてくるべきこそ
ぐしのまよりてくるこそ
ぐしのまよりてくるこそ
ぐしのまよりてくるこそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　三条の町

[illegible]　はるかぜ

[illegible]　[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第十八

雜　哥下

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれて毎年そうそくせしやうなりけれ
ども人しら須
けれども人こゝろに病に着とうの涙なりけり
世中のうきもつらきも思ひなくよゝまれそめる涙なりけり
よの中を思ひうけるも思ひも思ひをなくるかぎりは
世中はいつく知かわかるとやいはんわかるとやいはん
山里はわかるとしるしかりはすまよりけり
白雲のたえまをかくれ来たるあらはれてこそ
ぬるゝいまはしら
ちるとよまんとてもいつくか世中は涙のさきにたゝるくめり
いつくかはさいはんとて野山もとをしてこの世
世中を首よりやつるもんかひしりのこゝろあふるゝ
みちをいとふ山道の草本やわかれ花のさよ
世よりあとはうきさして宿もとふるきしのくれふさん
いつかはん出家の中にはまらしてはまれさこゝろ
生涯の山はまりくかはれなむしうる世中はかりしれ
世中のうきもくるしうの奥山のこゝろに山は雪やけ
おもしろさ
おもしろみなる山ゆいの人はまの人をそうかれ
山のかはのみなかみ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第十九

雜躰

短歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

壬生忠岑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詠歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思ふ事も思ふにしたがはぬ世なりけるやとうらめしきまで
あとなく思ふてはいとゝあはれきとはらくやゆきをかなしみて
つゝに思ふ人をまちわびぬ銀こやわすれぬ人の紙とせもとに

一かりやね

思ふ人をなを思ふ事やしくもしをりやも

一本よみいらん

出くれば人をまちわびぬ陸奥ふかくまつ人ひぬうれ
ゆくとうしぐもたのまれぬ人をわくまつ人なりけり
いとゝ物あはれまれ駒なきやのうしてにくるちとそ
なれこそ人やりのうしてあはれ知よい人人はあはれ
ゆくらるゝ人まつ人はあはれとわひしらあ

平中興

年毎に人をまつ月ふかしかゝ成ぬ
たれをいまはまつ月ふかしかゝ

なくらはれなりとゝ山ゝとゝ思ふ人思ふあはれなくよ
ゝとゝれあはれまれ山ゝはれ山ゝ人の心をそゝやまあ

伊勢

那波ゝ人ゝ那波ゝ世人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ
まあはれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ
ゆくとゝはれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

ゆきこし

いとゝ成けるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くう

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さぬき

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第二十

大井川行幸

おほかはのほとりの
新しき年の始めかはらぬ
月日は記しけれど
古なれぬ
ふるさとの
あらぬ面影
ゆくとしもわすれぬ
ふるさとの
あらぬ
あらぬ
ふるさとの
あらぬ
ふるさとの
あらぬ
ふるさとの

ことしのうのとれ門へのうの字
みなとのきれの海川をこえて君よつる白人百ばかりまれる
これを元慶の門へのうの人めくること
君ぞ代のかぎりもわしかなる白ぬきのうの人をしたとも
ちとせ仁和の門へのいきれくるものなること
大使のうのあり
わかてのや浪の山をそこくれそうひくこと人ゆ君をまち
これを今とれの門へのうのあること
東歌
みちのくにうた
わかちよりこちらこちらの門のあるも君とまとまれなる
塩うれ浦こ船のいくらあるーを
こちらのいいつくをわとて塩うれ浦こ船のいくらあるーを
つりをこと都よりやりて白のまき
まつのあるこれ門のうの白ぬきのうの人をあるとにいくらぶ白
みちのくにうた
みちのくにうたこれ門のうの人をあるとにいくらぶ白
君とまきくわうの船のあるこれ門のうの松ぬきのうの人
こうたんうた
こうたんうたこれ門のうの人をあるとにいくらぶ白
むそちうた
むそちうたこれ門のうの人をあるとにいくらぶ白
つるこれ歌のうの人をあるとにいくらぶ白
かひうた
かひうたこれ門のうの人をあるとにいくらぶ白
甲斐のうの松ぬきのうの人をあるとにいくらぶ白
いせうた
いせうたこれ門のうの人をあるとにいくらぶ白
りの浦よりこれ門のうの人をあるとにいくらぶ白
そのかぎりのうつるこれ門のうの人をあるとにいくらぶ白

[illegible]

家に秘蔵書入れ置き城哥今別出ス

巻第十　物名部

ひらがな

[illegible]

在新古下空蟬上　勝臣

[illegible]

をうらめの五文則下

くまれたを　はちゆか

[illegible]

[illegible]　をかこまし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

老[illegible]

[illegible]

[illegible]

源養父[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集序　紀淑望

夫和歌者託其根於心地發其花於詞林者也人之在世不能無思慮思慮之所遇感物而動者焉故見花鳴鶯聞水蛙之音而思生類者誰也孰不用和歌而成之乎力不費天地感鬼神動人倫和夫婦莫宜於和歌傳曰風一曰賦二曰比三曰興四曰雅五曰頌若夫春鶯之囀花中秋蟬之吟樹上雖無曲折各發歌謠物皆有之自然之理也於是神世七代時質人淳情欲無不和歌未作遠于素盞嗚尊乎出雲國始有三十一字之詠今反古之化也其後雖天神之孫海童之女莫不以和歌通情者爰及人代此風大起長歌

經哥挺頭混沌之類雖非非一流流漸變發
打拂雲之樹生自寸苗之煙浮天之波起於
一滴之露至如雅波律之什歌
天皇冨緒川之篇古子或事開神異或異入
逸玄但見上古每多存古質之語未為耳目
之娛徒為教誡之源古
天子每展英景招侍臣新寓道者歌和歌君
臣之情由斯可見賢愚之性於是和歌形以
隨民之欲擇士之才也自大津皇子之初作
詩賦詞人才子慕風繼塵移波漢家之字化
我日域之俗民業一汲和歌漸衰然於詩文
師傅古之先哲高振神妙之思独步古今之
間有山邊赤人者並和歌仙也其作業和歌

者綿々不絶及彼時家流漸人貴奢淫字詞
雲霧流泉漏其實皆為其花孤峯孤月之好
色之家以此為歌島々使乞食々客以此為
活計之資故半為婦人々右兼進士之前
近代存古風者纔二三人然長短不同論以
今年也山僧正也得歌仙然之詞花而少實
如畫美女徒動人情在色中將々於其情
有餘之詞不足如美色雖少彩色而有美香
又琳巧詠物形甚新近俗如賣人々忘解衣
宗治山僧長攜之詞也麗而首尾清澤如望
秋月遇曉雲小野小町々歌古容通姿之流
如無影而無氣力如病婦々忘花形大反是
主々歌古接也大文々臭也頗有逸興而新

甚鄙如田父之息爲花柔也以氏姓流風者
不可勝數其大底皆以艷爲基不如歌之逸
者也俗人爭事榮利不用詠和歌逃武
雖貴第相將冨能全物而貴未富出中名之
滅亡世上適爲後世技也者唯和歌之人而
已何者詣近人耳義慣神明也昔平城
天子詔伯官令撰萬葉集自余以來時歷十
代數過百年其後和歌雖風流如
雲寧相將情如在納云而皆以他事閑不以
斯道影
階下仲守之今九載仁流煙津洲之外惠茂
氣彼山之陰測愛爲潮〻考寧〻用口吻長
爲叢之頌洋〻滿耳思繼既絶〻風歌無久
廢〻道愛紹大內記紀友則所書所以紀貫
之前甲斐少目凡河內躬恒右衛門府生壬
生忠岑右兵衛尉紀家集并古來舊歌曰後萬葉
集也是皇子詔部類所生之所勒爲二十卷
名曰古今和歌集它爲詞少表也之艷名竊
秋夜之長況哉進恐附俗之恥退懲少藝之
拙適遇和歌〻中興以示吾君之來昌曜手
人凡沉沒和歌不在斯哉于時延喜五年歲
次乙丑四月十八日序貫之等謹序

天和三癸亥年　正月吉辰　九條源亮基
洛下二條寺町　義屋弥市次郎　刊

一九五八年二月　於神田